

北海道開発局では、実務体験を通じて土木工学の生きた知識を学生に習得してもらい、さらには建設業界の果たす役割の重要性と魅力を、将来を担う若者に伝えることを目的として、学外実習として1週間から2週間程度の就業体験実習生の受け入れを行っています。

令和2年度より、学生からのニーズを踏まえて短期（3日間程度）で複数の事業について学ぶことができる「短期実習」も開始しています。

実習対象

- ・大学生 及び 高等専門学校生
(大学院含む)
- ・高等学校生 及び 専門学校生

期間

令和5年7月24日～令和5年9月29日

部門

河川事業、道路事業、港湾・空港事業、
農業農村整備事業、電気通信事業、
機械事業、営繕事業

実習内容例

- 北海道開発局の事業概要説明
- 現場見学
…工事現場や管理施設を見学してその役割や日々の管理などについて学んでもらいます
(ダム、堤防、道路、橋梁、トンネル、港、空港、頭首工 など)
- 実際の業務
…職員が実際に行っている各種調査や業務を体験してもらいます
(工事現場監督、安全パトロール、流量観測調査、堤防点検、道路点検、図面作成 など)
- 意見交換会
…職員の生の声をきいて職場の雰囲気を感じてください
- 実習成果の発表 など

●現場見学（豊平峡ダム）



●安全管理実習（尾札部道路）



●現場見学（河川）



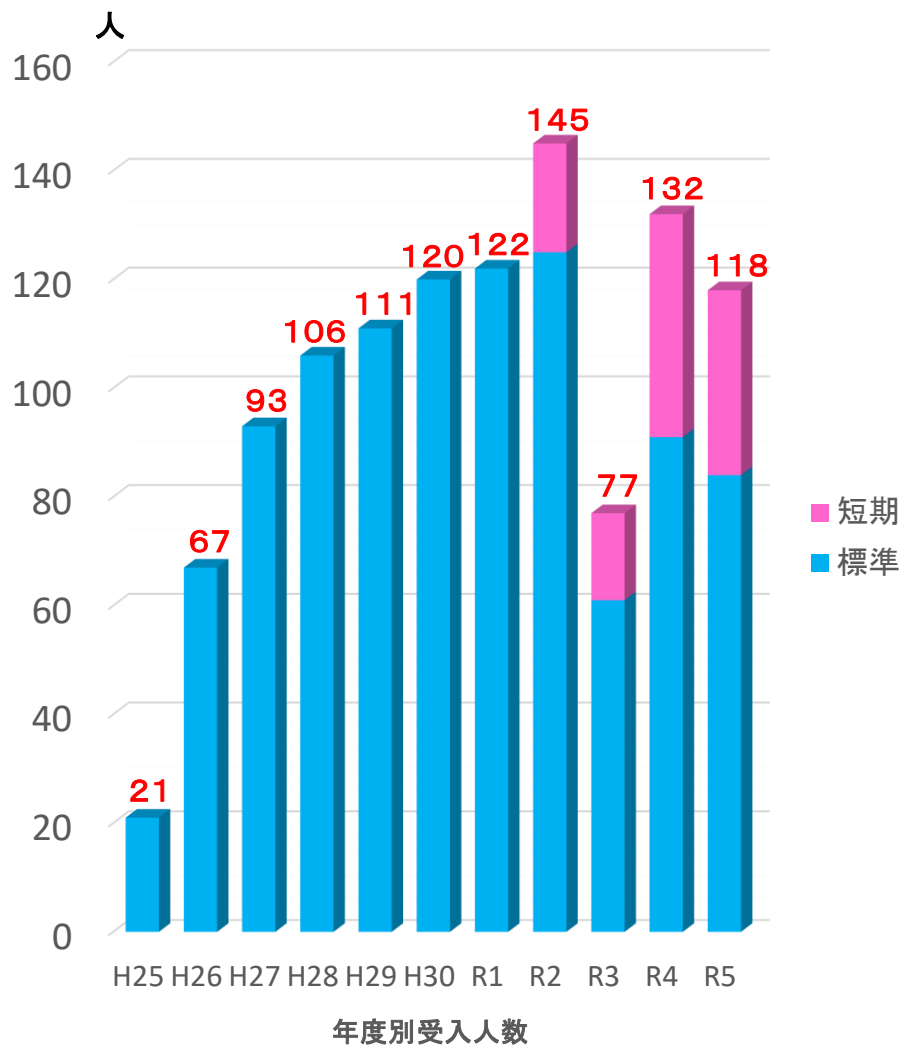
●現場見学（倶知安余市道路）



実習生の声

- ・想像より身近なところで仕事をしていると感じた。
- ・人の命と家を守る工夫を知ることができた。見えない場所で人を守る姿勢に心打たれた。将来、人の命を守る仕事を選びたいと感じた。
- ・土木の近代化が進んでいると実感した。
- ・丈夫で安全、さらに環境にも配慮することが大切と知った。現場で働いている方の話を聞き進路の参考になった。
- ・土木の大切さを教わり、様々な職種を知り魅力を感じた。
- ・土木は生活に欠かせないものだとは再確認した。
- ・異常気象の時の非常態勢が大変だと感じた。市民の生活を守る大事な仕事だと思った。

インターンシップ期間別受入状況



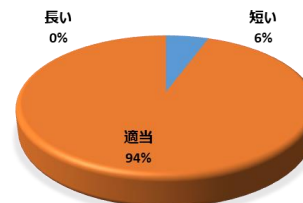
年度別受入人数

※ R3年度は、緊急事態宣言の影響により、受入中止が発生したため、受入人数が減少した。

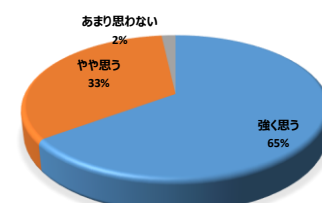
令和5年度 インターンシップアンケート

アンケート回答 高校生：48名、大学生等：70名、計118名

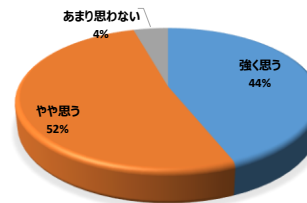
1. インターンシップの期間はどうか。



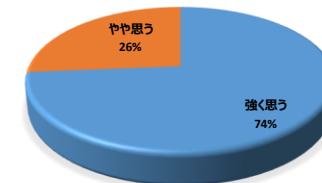
2. 職場の雰囲気理解できたと思いますか。



3. 実務に役立つ知識が身に付いたと思いますか。



4. 業務のやりがいや充実感を理解できたと思いますか。



5. 今回のインターンシップにおいて最も印象に残っている実習内容、あるいは最も有意義だと感じた実習内容を教えてください。

- ・建設途中の遊水地の見学
- ・石狩放水路の見学
- ・ダム内の現場見学
- ・船に乗っての巡視体験
- ・盛土工事の現場見学
- ・河道掘削工事の見学
- ・洋上風力発電についての意見交換
- ・岩盤崩落による通行止めの復旧作業
- ・制限区域見学
- ・現場見学全般
- ・夜間工事監督
- ・測量作業
- ・若手職員の意見交換会
- ・トンネル掘削現場の見学
- ・設計の講義
- ・ドローン操作体験
- ・定置式水平ジブクレーンの操縦
- ・CAD体験実習
- ・ICTプログラム
- ・ボックスカルバートの体験 等